

良 い街

MOTOSU
good
things

[2025.03]
vol.05

FEATURE#09 こちぼらぼ



FEATURE#10 中島 法晃

MOTOSU
HITO/MONO/KOTO



本巢市の
ヒト・モノ・コト

ヒト、モノ、コトが「良い街」をつくる。
生き生きと暮らすヒト、想いを込めてつくられたモノ、
新しくてわくわくするコトをお届けします。

良い街 Vol.05 2025.3 発行 発行 = 本巢市役所 企画広報課 〒501-0491 岐阜県本巢市早野255 TEL = 058-323-5142 編集・デザイン = 株式会社リトルクリエイティブセンター

もっと知りたい

〔本巢の魅力〕

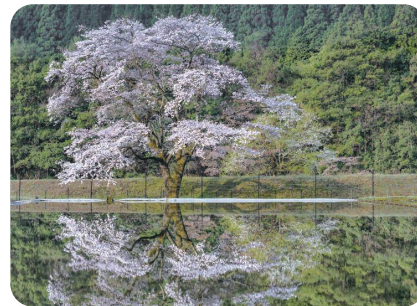
-MOTOSU no MIRYOKU-

01 暮らしを彩る新たな名所「もとまるパーク」



市の公式キャラクター「もとまる」の名を冠した都市公園「もとまるパーク」。もとまるが見守る、高さ12メートルの大型複合遊具がシンボルで、幼児用の遊具や障がいのある人も楽しく遊べるインクルーシブ遊具も設置されています。夏季限定で稼働するせせらぎ水路やミスト噴水もあり、人工芝が敷かれたドームテントでは、多くの家族連れがピクニックを楽しんでいます。今後、東海環状自動車道「本巢パーキングエリア」と連結予定となっており、さらに魅力的な公園へと進化を続けています。

02 地域愛が育む水鏡「神龍桜」



根尾神所^{こんりゅう}の水田に映る桜として、地域のシンボルとなっている「神龍桜^{じんりゅうさくら}」。この桜は、地元住民が市の国指定天然記念物「淡墨桜^{うすすみさくら}」の苗木から育て、水田脇に植えたもの。現在の場所に移植した2000年が辰年だったことから、地名の「神」と合わせて「神龍桜」と命名されました。地元の農事改良組合や自治会などでつくる「根尾神所水土里の会^{みどり}」が地域を盛り上げようと、ライトアップも実施しています。水面に映る桜はもちろんきれいですが、能郷白山を背景に観賞するのもおすすめです。

＼ いいもの、そろってます。 ＼

本巢市のふるさと納税

毎年、全国から多くの寄付が寄せられる本巢市のふるさと納税。食料品や日用品、木製品など、魅力的な返礼品がそろっています。



富有柿

岐阜県発祥で甘柿の王様と称される品種。果肉は柔らかく、甘みが強いのが特徴です。本巢市は全国有数の産地で、秋になると市内のあちこちで橙色の果実がたわわに実る風景がまちの風物詩となっています。

飛騨牛シャトーブリアン

希少なヒレの中心部にあるシャトーブリアンは圧倒的な柔らかさ。繊細な肉質で、脂身が苦手な人も虜になる感動の口溶けです。飛騨牛はステーキや焼肉、しゃぶしゃぶなど幅広くご用意しています。



詳細はこちらをご覧ください >

本巢市 ふるさと納税



数学 問題

VOL.05

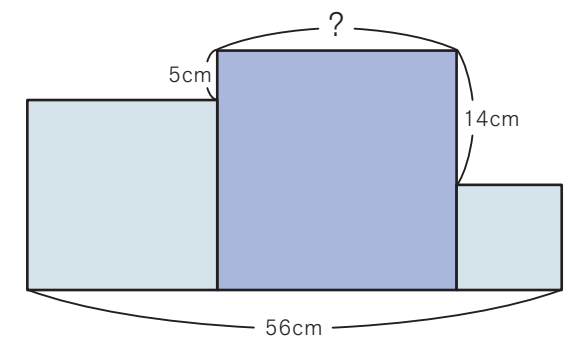
楽しみながら、考える力をUP↑

日本数学の父「高木貞治博士」の出身地にちなみ「数学のまちづくり」を進めている本巢市。数学の面白さに没り、楽しみながら「論理的な思考」を高める様々な取り組みをしています。論理的な思考は、的確な判断や表現力、説得力に直結し、人生を幸せにたくましく生き抜くために必要な力です。このコーナーでは、本巢市が実施している「算数・数学甲子園」の過去問をご紹介します。ぜひチャレンジしてください！

Question

下の図のように3つの正方形があります。
真ん中の正方形の1辺の長さを求めましょう。

第27回（2024年）出題



答えは
＼ 市HPをチェック！ ＼



FEATURE
#10
本巢市の
ヒト・モノ・コト

NAME
中島 法晃 / NAKASHIMA houkou

CATEGORY ☒ ヒト ☐ モノ ☐ コト

NOTE
美術家・住職

美術家、僧侶として、“生きるとは”を問い続ける。

浄土真宗本願寺派光輪寺。本巢市早野にある寺に住職の息子として生まれた中島法晃さん。美術の道を志し、東京藝術大学美術学部彫刻科に進学。在学中の2000年に得度を受けて僧侶となり、5年後、寺を継ぐために帰郷しました。現在は光輪寺の住職を務めながら、美術家として“書”と“造形”の可能性を探求する作品制作を続けています。

寺の周囲に広がる柿畑。その中に据えられた、圧倒的な存在感を放つ作品のタイトルは、『生きる』。鉄のフレームから吊るされた美濃和紙を埋める無数の“生きる”の文字が、時折、風になびき、かさかさと言を立てて揺れます。「これは2022年に揖斐郡池田町で行われた野外美術展『願成寺古墳群美術展』で最初に展示した作品です。それ以来、雨ざらしの中で展示をするたびに紙がちぎれてポロポロになって」。それでも、この作品は“生き続けている”と語る中島さん。「僕は柿農家でもあるんですが、柿って接ぎ木をするんですよね。最初は強引に枝を挿し込んで不自然に命を繋いでいるように感じて抵抗があったんですが、接ぎ木をしたところが、やがて元の木と馴染んで、命として機能していくのを見て『ああ、こういう命の継ぎ方もあるんだ』と思いました。だからこの作品も、紙が朽ちてしまったら終わりではなく、新しい紙を継いでいきながら、一生育てていきたい、と思っています」。

昨年秋に岐阜県で開催された「清流の国ぎふ」文化祭2024では、県内各市町村がふるさとの文化としての「推し」を



PROFILE

本巢市生まれ。東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。恵日山光輪寺住職。仏教思想に根差し、いかに生きるかを問い続ける自らの“死生観”をもとに、書と造形の可能性を探求する作品を制作。名古屋、東京、横浜などでも個展を開催。2019年から「保見アートプロジェクト」主宰。根尾小学校（現・根尾学園）の児童とリボン淡墨桜の作品制作、樽見鉄道樽見駅ホームのおもてなし看板製作、根尾学園校章デザイン制作など本巢市との関わりも深い。

<https://houkoun.myportfolio.com/>

FEATURE
#09
本巢市の
ヒト・モノ・コト

NAME
こちぼらぼ

CATEGORY ☐ ヒト ☐ モノ ☒ コト

NOTE
地域活動



DATA

〈こちぼらぼ〉
<https://kochibolabo.jp/>
@kochibolabo



〈CAFÉ DE MORE〉
岐阜県本巢市木知原240-1
水～土 7:00-11:00 日 8:00-15:00
月・火定休
TEL. 0581-32-5555



こちぼら
木知原の価値を再発見し、
未来へと繋いでいく。

本巢市街地と根尾を繋ぐ道中にある木知原地区。根尾川を臨む豊かな里山で、2024年3月、木知原の価値を再発見し、次代へ繋ぐ「こちぼらぼ」の活動がスタートしました。発起人は、中高生時代を木知原で過ごした井上明日香さん。祖母母らが自分たちで木材を切り出すところから家づくりをし、大切に手入れをする姿を見て、住宅に興味を持ち、東京の大学で住居学を専攻。卒業後、建築士として住宅や福祉施設などの設計に長年携わる中、2021年から木知原と東京の2拠点生活を始めました。「父の世界がきっかけでしたが、いつかは実家を継がなければという想いがあり、それならば母が元氣なうちにと思ったんです」。

こうして、数十年前ぶりに木知原で暮らし始めた井上さん。豊かな里山や、ほどよい利便性、顔が見える規模感といった魅力を改めて実感します。「東京の暮らしは仕事中心で“生かされている”感覚でしたが、木知原では暮らしの先に仕事がある。“生きている”実感が持てるんです」。一方で、人口が減り、活気が失われつつある集落を維持するには賑わいの創出が必要だと考えた井上さん。地域の人たちにもその想いを共有する中で、人々が集い、木知原の良さを見出す「こちぼらぼ」の構想が膨らみます。そして、拠点にと思い浮かんだのが、昔から住民のよりどころだった創業43年の喫茶店

「CAFÉ DE MORE」(以下、モア)でした。当時、健康上の理由で営業を縮小していたオーナー夫妻に相談すると、二人は拠点としての活用を快諾。スマートフォンが並ぶカウンターや織部焼きのタイルなど残したいものは活かし、老朽化した壁や床を張り替えて、建物を改修。さらに、長年飲食業に従事していた井上さんの弟の名知耶馬人さんも東京からリターンし、こちぼらぼに参画。モアの新たな店主として、オーナーからコーヒーの味を受け継ぎ、地元の素材を使ったヘルシーなモーニングを考案。こうして2024年10月、モアは再開を果たしました。

最初の試みは、地域の人や井上さんの知人など、14店舗が出店した「こちぼらマルシェ」の開催。2日間で約200人が来場し、「こちぼらぼ」や再開したモアを周知する場に。そして2025年3月、「こちぼらぼ」の想いや、住民のインタビューなどを掲載した「こちぼらぼはじまりの本」を発行。ここで暮らしてきた人々の考えや未来への希望を丁寧に拾い上げていきます。「この集落の文化や営みを繋げることが、私たちの役割だと思っています。そのために、まずはモアが気軽に立ち寄れる場所になってほしい。ワークショップの場やシェアライドの拠点、情報窓口：いろいろな使い方をしたいです」。木知原の未来をつくる、ゆるやかな賑わいが育まれ始めています。